現地理事会報告　2,017年9月18日　山下威士

　今年も、例年のように、現地理事会に先立って、9月1日（金）14時～15時に、KCPのCampus ChiefのManandharさんと、山下理事長と事前の打ち合わせをしました。内容は、翌日の理事会の打ち合わせと、今年のフオロ－アップ・セミナーで、さくら寮をお借りする借料について協議、さらには、山下理事長より、すでに期限の切れている文京学院大学との留学生交換協定について、奨学金、寮の優先的待遇など、多くのメリットもあることから、ぜひ継続するように、KCPから、文京学院大学に申し入れるようにお勧めしました。

　今年の現地理事会は、9月2日（土）11時～13時に、さくら寮の大ホールで開催されました。出席者は、ネパール側理事5名中4名、日本側理事2名、さらに委任状提出者3名でした。陪席は、JNFEAマネージャーのManjuさん,通訳のKrishna Khatewadaさん,それにKCPの会計係のKrishna　Tamarakurでさんした。司会は、Manandharさんにお願いしました。重要な議事は、次のようなものでした。

１　**＜2016年度の決算報告＞**　司会より、ネパール会計法規にもとづいて、Sharma会計事務所が作成した会計報告が、読み上げられました。結論的に言えば、予算総額4,437,304Rsに対して、執行額4,115,207Rsで、執行率は、92.7％であり、適正なものでした。

２　**＜2017年度のさくら寮予算説明＞**　私から、「Budget of　2017」の概要を説明しました。私どものPokhara　Projectは、Basic Agreement between KCP and JNFEAの第１条により、（１）リモート・エリーアのSLC合格の学生を選抜して、2年間、さくら寮に住まわせ、KCPで、教育を行なって、質の良い教師を養成することと、（２）このさくら寮を卒業した教師たちが、自分たちの故郷で、教師として活動するのを、3年間にわたり、給与allowanaceの支給を初めとして、できるだけ支援することを目的にしています。

ところで、みなさんご承知のように、第１の目的は、今年の5月に、100人目の卒業生を送り出すことにより、完成され、さくら寮も、2017年6月末をもって、KCPに完全にお返ししました。しかし、第２の目的は、なお今年を含めて、なお3年間継続します。

このような状況を背景に、今年の予算は、KCPの授業料などのKCP関連と、学生の食費や奨学金などの学生関連と、さらに、さくら寮の維持管理の費用などを、支出する必要がなくなりました。残りは、従来の人件費関係と、上記の第２の目的の中心をなす、卒業生教師への給与allowanaceの支給234万Rsが中心になります。このような事情を勘案して、このさくら寮予算表の簡素化と、ネパールに送る費用の明確化を意図して、少し新しい予算表を作り、提案しました。これは、JNFEAの9月理事会に提出され、正式に決定されます。

３　**＜JNFEAの活動報告＞**　山下理事長より、2016年8月～2017年7月までのJNFEAの1年間の活動について報告、とくに、昨年10月より、JICA　Projectが開始し、さくら寮10年間の成果と経験をもとに、Dhading郡とKapilbastu郡で、教員の質の改良のための普及活動を行い、さらに女性教師養成システム構築についての政策提言を行なおうとしていることが報告されました。さらには、山下理事長より、第６回留学生Kamala Dangiさんの日本での勉学と活躍状況について報告がなされました。

４　その後、理事長Pradhanさんより、あいさつがあり、理事会は終了しました。

**＜退職金の支給＞**　なお、今年の特色として、上記のように、さくら寮を、本年6月末をもって閉鎖したことから、「KCP退職金基準」にもとづく退職金を、7月のJNFEA理事会決定にもとづき、これまでさくら寮で働いていてくれた職員；寮母Manjuさん（2,017年7月までの9年間勤務）、会計係Krishna　Tamarakurさん（前同11年間勤務）、ガードマンのGopalさん（前同11年間勤務）、ガードマンのGobindaさん（前同2年間勤務）、マネージャーのKrishna　Khatewadaさん（2016年9月までの6年間勤務）に、9月1日と2日に、支給しました。